

町内会・自治会等ヒアリング（1回目）
地域の資源・課題編 結果概要
中心地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】をご覧ください、平成21年度の見直し時から約10年が経過したことを踏まえ、記載されている内容について、この約10年間で感じる地域の課題や変化、意見等についてお聞きしました。

①『地域の好きなおところ』について

- 歴史のある街並みや中津川のせせらぎ、中心部の便利さが共存している。盛岡で最も住みやすい場所だと思う。
- 集客を伴う施設がないことから、静かな街並みである。そのためもありマンション・アパートの居住者が世帯数の約8割を占めるようになった。
- 盛岡駅に近く、近隣に大型商業施設があり、買い物に便利。
- 住民同士の付き合いがよい。
- 都市と自然、新しいものと古いものが融合しており、見どころもたくさんある。
- 文化、伝統、芸術に関するものが多く集まっている。
- 変化が感じられない。

②『地域の課題』について

- マンション・アパートの居住者が多い関係で町内行事の運営等に支障が生じている。
- メインの通りが一方通行となっているので改善を希望します。
- 祭り、旅行、飲み会等声かけをしているが限られた人だけになる。
- 高齢化が進み、町内会役員のなり手不足。
- 北上川河岸の住宅地区の防災対策が進んでいない。
- ゴミ出しマナーの欠如。特にアパート住民。
- 大型店の廃業や岩手医科大移転など、中心部の空洞化による影響が大きい。同時に郊外への人口流出も止まっていない状況にある。
- 都市交通も、でんでんむし減便などの話も出た一方で、中心部のバスの過密ダイヤという面も見られる。
- 若い世帯が少ない。
- 子どもたち（小・中学生）が少ない。
- 最近、高齢化に伴い空き家が多く、さらに歯が抜けたように空き地が増え、駐車場が目立つようになって来ている。非常に淋しい感じである。もっともっと地域で楽しめるように工夫が必要と思う。人が休憩できる気軽な休み場などもあるといいと思う。
- 良くも悪くも変わらない。
- 道路が狭いのに、国道からの交通量が多い。
- 鉾屋町では電柱の地中化計画が進行中であり、道路の狭い問題は解決に至るのか期待している。その結果、神子田町にはどのような影響が出るのかな？
- 少子高齢化による地区の活性化が思うように進まない。

③『地域の資源・課題マップ』について

- 岩手医科大移転に伴い朝夕の交通渋滞は解消した。
- 空き地等が駐車場になり活用されている反面、まちづくりの形とはなっていない。
- マンション、アパートと古い家の調和がとれていない。
- 盛岡短大跡地の活用方法、有効利用が望まれる。「やはばーく」のような人の集える施設を期待したい。
- 若者が好む施設がないせいか、高齢者のベッドタウン化している。
- 肴町商店街においては中心となる（川徳、ななっくのよう）店がなく、イベントなど積極的に行っているが大きな賑わいとなっていないと感じます。
- 利便性においても商店の減少、公共交通の縮小、減少、病院の郊外移転など、またバリアフリー、ユニバーサルデザインなどの取り組みが進んでいるが、見えにくいと感じています。
- 資源「城下の落ち着いた風情」「歴史・文化施設の立地」
- 課題「高齢化」「空き家の増加と安全対策（屋根からの落雪など）」「更地化による駐車場の増加で虫食い化状態の街並み」「脇道の凍結道路の解氷除雪」「マンション住民の町内会活動への参加促進」
- 肴町商店街に手ごろな飲食店が少ない（居酒屋、焼き肉、焼き鳥屋など）。

④その他

- 若い世代の家族の減少に伴い、市中心地域は今後ますます高齢化が進むと思います。高齢者による車社会が進展、交通網の現状をみると、免許返納は難しい。JR 山田線の盛岡・上米内間の運行本数増、バスによる市内循環路線の拡大（現在は減便等の措置が講じられていますが）。
- いまある自然を大切に、ひとに優しいまちづくりを進めるべきと思う。
- この地域は洪水による災害のリスクが高い。しかしながら地域住民の洪水防災の意識が浸透していないことから、浸水の高さがわかる標識のような掲示物を設置するなどして日頃から防災意識の向上を図る工夫が必要と思う。
- 中央通りから西下台へ抜ける道路が狭いうえに歩道がないため車が通ると歩行者が立ち止まって車を通す（通勤時間帯の車が多くて危険である）。
- 岩手公園・芝生広場へのPFIによる施設建設は芝生広場の大半を占め、近隣住民の貴重な芝生の遊び場、憩いの場を奪うものだ。事業に盛り込まれたカフェや服飾小売なども周辺の既存商店街の営業に影響を与えないか。また、公園のトイレ管理は市の担当部署の仕事としてやるべきものとする。
- バスセンターや旧中三の再開発を期待している。高齢者の多い地区であることから、歩いて楽しめる街へと変化してほしい。

「問2」については、まちづくり全般に関する意見についてお聞きしました。

- コンパクトプラスネットワークを軸に据えながらも、この中心市街地がしっかりしないと、盛岡が盛岡でなくなる。特に、盛岡らしさを外に大きく発信できるのは、城周辺と河南地区である。このエリアに市民も観光客も多く行きかうような町へと再生したいものである。
- バスセンターや短大跡地など繋がりをもちながら（旧街並みと）人々が和める町、地域づくりをしてほしい。よい場所がたくさんあるものの、市民があまり認識していないように見えるので、もっと、もっと工夫して、身近なまち、親しみのあるまち、楽しいまちづくりをしていただきたい。
- 盛南地区の開発が進み、旧市街地が空洞化していると感じる。

町内会・自治会等ヒアリング（2回目）
まちづくりの方向性と基本方針編 結果概要
中心地域

※主な意見等を抜粋しています。また、同種の内容はまとめて記載しています。

「問1」については、添付した地域の現状データや、1回目のヒアリングの結果概要及び各町内会等が主に属する地域の【地域別構想】を確認いただき、各項目への追加、修正点や今後の地域のまちづくりに関する意見等についてお聞きしました。

①『まちづくりの方向性』について

- 車道、歩道に加えて自転車専用道を設置する。
- 中心地域は都市機能が集積しており、県庁、市役所の行政機能、新聞社やテレビ局の報道機能、さらに県民会館、公会堂、また金融機関が集積されている。岩手医科大跡地の課題も含め都市機能を整備してほしい。
- 来訪者に優しい道路サインについてですが、少し遊び心を持たせた工夫があるといいと思います。
- 観光推進については河南地区に観光バスの発着ができるよう配慮することが重要だと思います。
- 近年、盛南地区の開発が進み大型小売店が数多く移転進出した経緯もあり、また岩手医科大の移転により盛岡の中心部の空洞化が顕著となった。特色あるまちづくりを進めていくには核となってきた中心市街地を活性化していくことは重要である。
- 景観について自然はともかく伝統、歴史景観の点は多くなく、活用するまでに至ってないと感じます。
- 鉾屋町通りの無電柱化、融雪路への改良の早期実現、それに伴い町内会所在の寺の下通りとの一体感がほしい。
- 災害に強いまちづくり（想定外の水害等にも耐えうるまちづくり）。
- でんでんむしのような循環バスを河南地区にも運行。

②『まちづくりの目標』について

- 電柱の配線は景観上見苦しい。また、災害発生時は倒れるおそれがあり、避難や車の通行が不可能になるため地下に埋設する。
- 都市の趣とは何なのか。きちんと定義を示さなければ大多数の市民は同じ価値観を持たず、各自の方向性が異なってしまうと考えます。
- 北上川河岸の住宅地区の防災対策が遅れている。
- 自然資源を守ること。
- 水と歴史に関連した事業が行われましたがあまり活発に動いているようには見えません。
- 自転車の利便性、冬期の不便さは大変です。解決なしでは利便性はどうか。

③『まちづくりの基本方針』について

- マンションの増加により町内会活動への参加者が少なくなっている現状を踏まえた方針にした。
- 商店街が活力低下している一方で中心市街地で交通渋滞が起きるとするのは奇異な感じがします。

- 盛岡城を中心に盛岡城跡の工夫。
- コミュニティの形成について monaka 屋上にコミュニティスペースをつくる計画が進んでいるので肴町商店街と連携し、盛岡市も一体となって進めてもらいたい。
- マンション建設で人流は増えるが交流がない。マンション内部でも交流がないと聞いています。一定規模以上のマンション建築の際に、地区民も使用できるような公園、緑地、集会室を設けていただくのが理想です。
- マンション居住者を巻き込んだまちづくりができるようさらなるマンション対策を推進してほしい。
- 高齢者が買い物できる商店街の形成がほしいと思う。

④『まちづくりの方針マップ』について

※この欄に記入又は別紙のマップに直接御記入ください。(両方を併用しても構いません。)

- 菜園通りは年中道路工事が行われており著しい凸凹になっております。
- 今の季節、高齢者にとっては歩くことが危険な状態の道路があちこちに散見されます。メインストリートの大通りでさえ歩きにくい状態でした。

「問2」については、広く今後のまちづくりについて検討する必要があると感じることについてお聞きしました。

- 盛岡駅から開運橋を渡り盛岡城跡公園までを観光客誘致への散策路として整備。
- 全市民がシンプルに理解できる具体的でわかりやすいコンセプトこそ必要だと思います。
- 古い言葉でふるさと再発見というのがありましたがもう一度、自分たちのふるさとの良さを見つめなおすことが大切で自ずと人への思いやりなどやさしい気持ちが醸成されるのでは。
- コロナ禍ではありますが材木町で毎週開かれている「土曜夜市」のように賑わいのある企画が「肴町アーケード」においても開けないものか。
- 空き家対策が必要となってきている。
- 地域の活力を阻害する問題解決については時間がかかるとは思いますが、先進的な事例を参考に推進していただきたい。